鳥取臨床科学 12(1), 57-61, 2020

「臨床実習で獲得した力は何か」

－作業療法士学科実習生の自己評価の分析－

和田義哉 [1)]　辻村肇 [2, 3)]
1) 学校法人大阪滋慶学園　鳥取市医療看護専門学校　教務部
2) びわこリハビリテーション専門職大学　作業療法学科
3) 大阪電気通信大学医療健康科学部

Skills acquired through clinical training: analysis of self evaluation of occupational therapy students

Yoshiya Wada[1)] Hajime Tsujimura[2, 3)]
1) Education Department, Tottori Medical Nursing Vocational School
2) Department of Occupational Therapy, Biwako Professional University of Rehabilitation
3) Faculty of Medical Science and Health-Promotion,
Osaka Electro-Communication University

要旨

本研究では，臨床実習を終えた実習生たちにアンケートを取り，実習で学んだことを自由に記述させ，実習で得たことについての分析を行った．方法は，臨床実習I（2 年次の 1～2 月）・II（3 年次の 5～7 月）・III（3 年次の 8～10 月）の終了後に，実習生にアンケート形式で「実習で獲得した能力と成長したところは何ですか.」と尋ねたところ，その回答に共通してみられた単語において，臨床実習 I では「評価」，「学ぶ」，「見る」が多く，臨床実習 II では「自分」，「考える」，「治療」が多く，臨床実習 III では「考える」，「生活」，「退院」が多かった．各実習の段階において，臨床実習 I では評価に関わること，臨床実習 II では治療に関わることを学び，臨床実習 III では退院後の生活についても考える力が付くようになったと考えられる．鳥取臨床科学 12(1), 57-61, 2020

Abstract

We performed a free-answer questionnaire survey on trainees who completed clinical training I (January to February of second year), II (May to July of third year), and III (August to October of third year). We asked them, “What were the skills you acquired and areas where you saw yourself improve through the practicum?” Common words used in the responses of those who completed clinical training I included “evaluation,” “learning,” and “observation.” The common terms describing clinical training II included “myself,” “thinking,” and “treatment;” and in clinical training III, “thinking,” life,” and “discharge.” These results showed that trainees gained knowledge related to evaluation in clinical training I and knowledge related to treatment in clinical training II. And they were able to think about a patient’s life after discharge in clinical training III. Tottori J. Clin. Res. 12(1), 57-61, 2020

Key words: 作業療法士，臨床実習，実習での学び，テキストマイニング，患者とのコミュニケーション; occupational therapists, clinical training, learning from the practicum, text mining, communication with

patients

はじめに

日本作業療法士協会の作業療法臨床実習指針[1]によると，臨床実習の到達目標は，臨床実習指導者の指導・監督のもとで，典型的な障害特性を呈する対象者に対して，作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につけること，許容される臨床技能を実践できること，臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程を説明し，作業療法の計画立案ができることである．

臨床実習は，医療職獲得のための難関過程とも言える．学外での臨床実習は，作業療法士になる意欲を減退させることもあるが，実習から得られるものも多いと考える．

先行研究[2]において，理学療法士の臨床実習に必要な要素の検討で，忍耐，知識，コミュニケーション力が挙げられた．また，他の先行研究[3]では，実習での成果が大きかったと感じた学生は，介入の知識や技術，評価の知識や技術など，理学療法の思考過程に成果を感じ，実習の成果が中程度の学生は，コミュニケーションに対し成果があったと述べている．これまで，臨床実習に関する調査研究は数多くなされているが，実習生自身が実習後に関する評価した報告は少なく，実習生が獲得した能力は何かを実習別に調べた研究も少ない．

本研究では，各段階での臨床実習を終えた学生たちにアンケートを取り，実習で学んだことを自由に記述させ，実習で得たことについての分析を行ったので報告する．

方法

被験者は鳥取市医療看護専門学校作業療法士学科（3 年制）の 1 ～3 期生で，合計は 106 名であった．方法は，各臨床実習（臨床実習Iは 2 年次の 1～2 月の 5 週間，臨床実習 II は 3 年次の 5～7 月の 11 週間，臨床実習 III は 3 年次 8～10 月の 11 週間実施した.）の終了時に，実習アンケートを実施した．その中に「この実習で獲得した能力，成長したところは何ですか.」という質問項目を設定し，自由に記述させた．分析方法はテキストマイニングによる分析を行った．テキストマイニングとは，大量の文章データから有益な情報を取り出すことを総称したものである．このテキストマイニングを行う装置として

表 1. 各実習における学びについて頻出された単語と語数

臨床実習I	語数	臨床実習II	語数	臨床実習III	語数
評価	59	患者	38	考える	39
患者	44	考える	32	患者	38
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	24	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	30	治療	21
学ぶ	24	自分	27	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	20
見る	21	治療	24	評価	20
考える	21	見る	19	自分	19
行う	19	行う	18	実習	18
対象	19	実習	18	学ぶ	17
自分	16	評価	15	観察	16
実習	15	力	15	思う	15